



～安心を未来へ～

2011年2月1日発行 2月号 No. 192

◇「ホモサピエンスとネアンデルタール人」

本部長代行 松本 有司〔台東支部 金方堂運輸(株)〕

ご覧になっている方も居られると思いますが、BS朝日にて放映されている「BBC地球伝説」、この番組はその名の通り英国BBCから番組を購入してシリーズ毎に連続放映されます。その中でも正月に放映された「遙かなる人類の旅」についてのご紹介と雑感です。

全人類の祖先がアフリカを起源とするホモサピエンスであり、ネアンデルタール人は祖先ではなく絶滅した別な人種であることがDNAの解析で明らかになっています。ネアンデルタール人はヨーロッパを中心に生息していましたが、ホモサピエンスよりも体格の良いネアンデルタール人が絶滅した理由はその生活様式に違いがあったとの説が有力であります。ネアンデルタール人は2～3人の集団で生活していたのに対し、ホモサピエンスは大勢で部落を形成し、しかも部落同士での交流があった。その証拠に遠隔地に点在する部落から共通した石器や宗教に使われたと思われる土偶が出土しているそうです。

また現在のヨーロッパ人と東洋人、ましてやアフリカの方々とは骨格も皮膚の色も違いますが、全ては気候変動に伴う環境変化への順応の結果だそうです。ヨーロッパに移動した祖先は曇天続きの環境でもビタミンDを生成し易いように白色の皮膚に変化し、アラスカに移動した祖先は寒さから守る為に、鼻は低く、頬の皮下脂肪が発達、皮膚の色は黄色に変化して東洋人の祖先となったそうです。

ここからは私の雑感ですが、この話から二つの教訓を学ぶことが出来ます。一つは全人類、現生人と呼ばれる全ての人間がアフリカに同じ母を持つ親戚であると言うこと。利害や宗教の違いは永い歴史的時間の経過によって築かれたわけですが、それを対立と解釈するか、気候変動による順応と解釈するかで人類の未来は変化していくような気がします。

そしてもう一つの重要な教訓は、種を保存するにはコロニーを形成し、各コロニーの間で情報交換を続けていくことが有利という教訓であります。世界に点在する兄弟達の対話が必要と言うことでしょうか？ 未来を予見することは大変難しいことではありますが、過去の歴史を正しく理解することで、進むべき方向を探ることも可能であるような気が致します。

◇「TPPについて」環太平洋戦略的経済連携協定

「昨今話題になっているTPP」

「TPPこそ日本の生きる道」とか、「平成の開国」との論調を見受けるが、その前に、我々は、八紘を一字とする肇国（ちょうこく）の大精神に基き世界平和の確立を招来するという、日本の固有の道徳観をきちんと持ち、考える必要がある。

第二次世界大戦の際、リトアニアの在カウナス領事館に赴任していた外交官・杉原千畝（すぎはら ちうね）は、ユダヤ人難民が亡命できるよう大量のビザを発給、ナチス政権下のドイツによる迫害を受けていたおよそ6,000人にのぼるユダヤ人を救ったことはあまりにも有名な話である。欧州での迫害から満州や日本に逃れきたユダヤ人やポーランド人を救済する人道活動につながったのも、この八紘一字の精神が軍にも外務省にもあったからだ。

食料や農業、もちろん物流もそうだが、国家としての重要政策は、政権が代わったからといって急激に変わるものではない。また、万に一つも無いとは思いますが、このような重要な政策が、政権や政党のポイント稼ぎの材料になることだけは、絶対に避けなければならない。
(怪傑ハリマ王)

「TPPってなんだ？」

支部新年会の帰りにもう一軒と言う例の彼に「TPPの意味わかる？」と聞いてみた。

彼曰く「ん～？ あれか、よくわからんが現首相が進めるものに国益にかなうものは無えだろなあ」・・・妙に説得力が有るように感じるのは何故なのだ（笑）。

さらに「だがなあ、一つだけ実行出来た公約が有るぞ」「それはなあ、首相就任時に＜最小不幸社会＞を目指すと言っただろう」「あれはなあ、宰相（で）不幸社会を目指すって意味だったのだよ」・・・長くなりそうなので勘定をお願いした。

後日、彼の予言？が的中している事を動画サイトで確認する事となった。 <http://www.youtube.com/watch?v=nRmNJpUj5sI>

TPP参加に賛成なさっている方はぜひご覧になって下さい。

(ロジ裏研ノ介)

◇「タイ旅行記II」(前号の続き)

広報副委員長 鈴木 貢〔葛飾支部 (有)すずか梱包運輸〕

クワイ河鉄橋を徒歩で渡ってみた。軌道内への立ち入り制限がない。自己責任ということか？ むしろ便数が極端に少ないため、無駄な空間は生活道路として使ってしまう～という考えらしい。



汽車は森の中を走ったり、崖っぷちを這い回ったり、ぼろぼろの木の橋をゆっくりギシギシと音を立て、徐行運転しながら通過したりと、さながらディズニーのアトラクションのようだ。

途中空いてきた車両で、車掌を席に呼びつけ、一緒にビール飲む。日タイ友好を願って乾杯をした。

日本では考えられない旅のハプニングにとてもうれしくなった。鉄道従業員の観光客に対するサービス精神なのか、それともただ仕事をサボっただけだったのか、どちらでも良い。

汽車は途中、何度か駅に停まった。

殆どが無人駅で、誰も乗り降りする人がいないと知ると、さっさと走り出してしまう。

当然、アナウンスなど無い。

友達が何回か汽車から降りて、記念撮影をしていたが、彼が乗り込もうが乗り込まないが、汽車は出て行く。

当人はあわてて乗り込むことになる。私は手を振って見送ろうとしたが、必ず汽車に戻ってくる。

やっと汽車は最終の目的地ナム・トックに着き、世話になった酔っ払いの車掌に手を振り、別れを告げた。駅のそばのレストランで遅めの昼食をとり、近所にある観光スポットの滝の見物に行ったが水が流れていない。乾季だという。

ここには既にカンチャナブリまで乗ってきていたバスが先回りしていた。それに乗り込み私たちはバンコクへの帰路についた。

バンコクではソンプーンというお気に入りのシーフードのレストランでこれもお気に入りの蟹カレー炒飯を頂いた。乾杯のビールがおいしかったのは言うまでもない。

◇スケジュール

- 2/10(木) 17:20 三組織合同セミナー
19:15 三組織合同新年会 新宿京王プラザビル4F
- 3/ 8(火) ロジ研フォーラム・東総総合会館